

社会福祉協議会の取組に対する委員からのご意見

委員	シート 頁	重点事項・ 重点的取組	意見内容
金井委員	1、 10、 18、 34、52	1、2相談支援機能の強化と相談体制の整備 3個別相談窓口の再構築 4ボランティアセンターにおける個別ニーズ対応の拡充 5福祉窓口としての周知と利用の促進 6、7地域の公共施設等と連携した情報提供体制づくり 8サービス利用につなぐにくい人への支援の検討	【今後の方針】①令和3年度にコミュニティソーシャルワークの知識と技術を学ぶための職員研修を実施する。②最高のパフォーマンスで相談支援できる環境を整備する。例えば、オフィスデザイン、車両等機動力、ICT環境、クライアント管理ツール、など。
栗原委員			社協内研修は欠かせない取り組みですので、今後も職員・組織の資質向上のため継続して下さい。
栗原委員	1～8		相談支援機能の強化及び相談支援体制の整備に取り組む上で、市と連携し情報のデータベース化と共有を前提に検討して下さい。
金井委員			【今後の方針】令和3年度に4圏域を担当するコミュニティソーシャルワーカーを配置し圏域内の小地域福祉の組織化や活動の支援業務にあたる。また、令和4年度に4圏域の機能集約センターにコミュニティソーシャルワーカーを配置し、包括的支援体制づくり、重層的支援の一翼を担う。
清水委員	2、 11、 19、 35、53		CSWに期待しています。アウトリーチの相談支援と、専門機関との連携で「ひとりも取り残さない」支援の構築をお願いします。
栗原委員			コミュニティソーシャルワーカーの配置につき、職員が取得するしないしは資格を有する人を採用する等の手段を講じ、期間内の早い時期に配置する目標を設定して下さい。
小暮委員			CSWを配置して小地域福祉活動をサポートすることはとても重要である。CSWは地域で起こる問題を的確に把握し、地域住民をリードして小地域福祉活動を組織する役割を担う。地域住民だけで活動を組織することは難しい。社協が中心となり地域を作るという視点を強烈に意識する必要がある。
金井委員	3		【今後の方針】機能集約センターとの統合を検討する。
栗原委員			心配ごと相談・成年後見人相談は結婚相談のように開催サイクルを記載して下さい。
金井委員	4		【今後の方針】ボランティアセンターは、個別ニーズだけではなく地域や施設・団体ニーズにも対応することが求められます。依頼ニーズと応募ボランティアのマッチングを行い、その実績をデータ化すること。また、ニーズやボランティアの動向を分析するとともに、マッチングの目標値を設定する。さらに、ボランティアセンター運営委員会でボランティア支援の方針を立てること。
栗原委員		外国人への対応策はボランティアの増加と共に、自動翻訳機が活用できないか検討して下さい。	
金井委員	8	【今後の方針】「SOSを発せない人への支援」もアウトリーチの対象に加える。	
栗原委員	9～17	協力者（個人・団体・企業等）の増加に努められ、有償事業化できる事項の検討をして下さい。独立採算化できる社会福祉法人へ向け、県内の社会福祉協議会の体制と事業構成を合わせて調査して下さい。	
金井委員	13	【今後の方針】潜在ニーズの把握にも注力する。	

委員	シート 頁	重点事項・ 重点的取組	意見内容
金井委員	17	16成年後見制度の普及啓発 17制度の狭間の人への支援	【今後の方針】潜在ニーズの把握にも注力する。
栗原委員	18～21	18、19相談支援機能の強化と相談体制の整備（再掲） 20更生保護団体との連携 21更生保護運動への協力	難しい事項ですが保護司を中心に更生保護団体等との連携を深めて下さい。
栗原委員	22～25	22、23災害ボランティアセンターの設置・運営体制の整備 24災害ボランティアの養成	今後の方針に新型コロナウイルスを含む疫病問題を追加して下さい。
金井委員	25	25被災者支援のための相談支援体制の整備	【今後の方針】埼玉県災害福祉支援ネットワークと連携して、指定避難所へのDWA Tの受入調整および相談体制の充実を図る。
栗原委員	26～29	26、27障害への理解を深めるための市民向け研修会等の開催 28学校等と連携した福祉教育の充実 29地域共生社会の実現に向けた意識の醸成	手話通訳に従事した回数を教えて下さい。
栗原委員	28、43	28、43学校等と連携した福祉教育の充実	今後の方針には教員向け研修・プログラム集の実施工程表を記載して下さい。市のシート58において小中学校向けの啓発パンフレットを作成していますが、このパンフレットが有効に活用されるように早急に研修の実施とプログラム集の作成を行ってください。この事項は協議会が行う事業なのですか。主体者が協議会では負荷が多いと思われるのですが、いかがですか。
小暮委員			学校教育の中で福祉教育を充実させることはとても重要である。地域福祉課が担当し社会福祉協議会が中心となり進めるのは無理があるのではないか。教育委員会が中心となり地域福祉課と社会福祉協議会が関わるといふ体制の方がスムーズに進むのではないか。実践を繰り返す中でよいものが生まれると考える。
栗原委員	30～33	30有償家事援助サービス事業の拡充（再掲） 31移動支援を行う団体への育成・支援の検討 32住居に関する相談への対応 33空き家の福祉的利用の促進	地域の生活環境を改善するために必要な事項ですので引き続き、成果の拡大に取り組んで下さい。
金井委員	32		【今後の方針】市に設置される居住支援協議会と連携して、自立生活が始まった要支援者の互助的な支援を検討する。
栗原委員	34～41	34、35相談支援機能の強化と相談体制の整備（再掲）	本庄西地域包括支援センター（社協）の機能を中心に、情報の収集と共有化を推進し、サロン活動など参加者の増加に努め、その成果を計数で記載して下さい。

委員	シート 頁	重点事項・ 重点的取組	意見内容
小暮委員	36	36小地域における住民の福祉活動の組織と活動拠点の整備 37当事者組織の支援 38福祉関係講座受講者等の実践活動支援の検討 39サロン活動の推進 40多職種連携の推進	「人と人とのつながりづくり」を実現するためには「どのような活動」が求められているのかを検討することが必要。現在取り組まれているサロン活動や会食事業が原動力になるのかの検証が必要と思われる。多くの問題を地域で支え、地域で解決することを目指すのならば「小地域における住民主体の福祉活動に求められる役割や機能」を検討することが必要ではないか。農業を中心とする村落共同体的繋がりは解体しているので、そこに戻ることはできない。新しい地域の関係を作り上げる作業が求められている。そのためにはどんな活動が必要かを検討し、それに向かって立ち上げる作業をする必要があると考える。
清水委員	38	41社会福祉法人相互の連携体制づくり	各養成講座をオンライン講座として数多く実施して理解者を広げ、SOS訓練等の実演をサポート中心に数多く行える仕組みはどうか？
小暮委員	39		サロン活動が広がりを見せていることはとても素晴らしいことである。サロン活動が地域の相談支援体制の構築につながるにはどんな運営をしたらよいかを自治会等の運営担当者と協議を重ねる必要性を感じる。サロンに参加できる高齢者は比較的元気でコミュニケーション能力もある方が多い。支援を必要とする方はあまり参加していないのが現状ではないか。サロンの設置数に満足することなく運営方法を地域住民とともに考え、実践していくことが必要である。
小暮委員	40		他職種連携の他職種とは具体的に何か。どんな職が連携することにより地域共生社会が実現するのか。イメージが湧きにくい。現場は他職種の連携をどう考えているのか。連携することの必要性を認識しているのか。社協が啓もう活動を行わないと連携の機運にはならないのか。現状の分析があればありがたい。
金井委員	41		【今後の方針】福祉事業を実施する社会福祉法人・特定非営利活動法人等の経営者の組織化を図り、福祉事業の相互の連携や質的向上、課題解決の取り組みを推進する。
栗原委員	44	学生の福祉意識の醸成に向けた取り組み	福祉学習により施設と学生に交流ができたことは良い経験と思います。この経験を活かし、次年度以降の福祉学習の内容を改善して下さい。
栗原委員	45～48		活動を通して、地域の福祉水準の向上につながることを期待できます。
金井委員	47	45福祉教育ボランティアの育成 46多様なニーズに対応したボランティアの育成 47ボランティアコーディネート機能の充実 48地域における福祉人材の発掘・育成	【今後の方針】ボランティアセンターは、個別ニーズだけではなく地域や施設・団体ニーズにも対応することが求められます。依頼ニーズと応募ボランティアのマッチングを行い、その実績をデータ化すること。また、ニーズやボランティアの動向を分析するとともに、マッチングの目標値を設定する。さらに、ボランティアセンター運営委員会でボランティア支援の方針を立てること。
金井委員	49	民生委員・児童委員等支援関係者の支援	【今後の方針】民生委員と社協職員が圏域においてチームを編成し、地域のニーズ把握や小地域福祉活動の推進に取り組む。
栗原委員	51～60	51業務・財務分析や事務局の体制強化 52、53相談支援機能の強化と相談体制の整備（再掲） 54社会福祉協議会の認知度の向上 55社協会員の増強 56会費、寄附金の確保 57事業の透明化 58寄附意識の醸成	シート9～17に記載しましたが再掲します。 ＜独立採算化できる社会福祉法人化へ向け、県内の社会福祉協議会の体制と事業構成を併せて調査して下さい。＞⇒調査の結果を踏まえ、今後の方針に工程表を記載して下さい。
栗原委員	57		法人組織として、内部統制に必要な体制を構築して下さい。

委員	シート 頁	重点事項・ 重点的取組	意見内容
金井委員	60	59基金の適正活用 60共同募金運動の推進	【今後の方針】①共同募金運動に協力する住民サポーターを組織し、共同募金会事務局と協働して活動の企画や事務を分担する。②共同募金を広く活用するため、住民や団体向けに共同募金申請講習会を開催する。
金井委員	その他		●新規項目 シート頁25の次に追加 【重点事項・重点的取組】5災害福祉支援ネットワークの構築 【取組内容】①被災者を支援する福祉関係者のネットワークを構築し、災害時に福祉避難所を支援するとともに、被災した福祉事業所の応援体制を検討する。②災害時の福祉事業の継続を図るため、事業継続計画（BCP）の策定を支援する。
金井委員	その他		【重点事項・重点的取組】感染症禍における地域福祉活動ガイドラインの作成 【取組内容】新型コロナウイルス完成防止対策を講じながら地域福祉活動を推進するために活動ガイドラインを作成し、普及する。
小暮委員	その他		現実的には地域という存在は解体されている。日常生活で地域を感じることはない。 ①地域で高齢、障害、子ども、婦人、貧困等の問題を担っていくことができるか。 ②現状では困難、どうすればいいのか。 ③地域の力に依存しているのでは現状を打破することはできない。
小暮委員	その他		社協が中心となり小地域福祉活動を立ち上げる。 ①小地域でどれだけの福祉活動が行われているか、現実にマッチした活動か？ ②地域共生社会の実現にはどんな活動が必要か。 ③モデル地域でCSWを中心に小地域福祉活動を立ち上げる。 ④モデル地域での実践を他地域に広げる活動をする。
小暮委員	その他		「ふくしの杜ほんじょうプラン21」を学習することの重要性を感じる。 ①計画に携わる者が内容を自分のものとして、積極的に行動する。 ②各自の自覚と目的意識的な行動が計画を成功に導く。 ③学習機会を保障する取り組みの重要性。 ④庁内の学習と社協が中心となる地域向けの学習。